

## 平成30年度 第2回 アドバイザリーボード 議事要旨

1. 日 時：平成31年3月20日（水）10:00～12:00

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室

3. 出席者：

（委員）近藤議長、岡委員、田代委員、東嶋委員、中山委員、  
山口委員、横倉委員

（事務局）末松理事長、梶尾理事、信濃執行役、谷経営企画部長、矢作総務部長、前田経理部長、中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、高見産学連携部長、加藤基盤研究事業部長、井本臨床研究・治験基盤事業部長、河野創薬戦略部長、林革新基盤創成事業部長、内山経営企画部次長、立元経営企画部調査役、浅野国際事業部国際連携研究課長

4. 議事

1. 日本医療研究開発機構の取組
2. 日本医療研究開発機構の次期中長期計画に向けた検討状況
3. 平成31年度医療分野の研究開発関連予算について
4. その他

5. 議事の概要

事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

### 【議事1. 日本医療研究開発機構の取組と課題】

事務局より資料1-1から資料1-3を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

○臨床ゲノム情報統合データベース（MGeND）の登録要件について、具体的な数値目標の達成状況が課題評価に示されるようになった、一方で、目標設定が本当に妥当なのか、全体の達成状況を議論することが重要である。なお、TOGOVARとMGeNDの協働はぜひ進めてほしい。

○IRUDについては、診断がついた患者あるいは家族の声がAMEDに届いている

のであれば、患者の声を集め発表することによって、IRUDを知らない患者・医師・一般の方たちへのメッセージになるのではないか。

○IRUDにより、患者と研究者をつないでおり、ゲノム医療の稀少難病を推進する一つのつながりになっていることは間違いない。

○創薬につなげる努力という点で、利益を受ける患者が多い疾患が対象となるが、そういう中で、難病の症例数が少ないものについても、積極的に取り上げてほしい。

○若手の研究者の方たちの中からすばらしい成果が上がるように、AMEDとして支援してほしい。

○遺伝子治療に関する新たな取り組みとして、具体的には、予算計画の立案、研究者の掘り起こし、施設の整備等を進めていくことを検討してほしい。

○ヒト型薬物代謝モデルラットで、人間から出てくるいろいろな物質を使ったバイオリジカルな薬物を調べることができることを期待している。

○国際レビューアの導入状況で、いろいろな日本の研究テーマが、外国の人の目に触れていくということで、情報漏洩対策も必要。

○分野に応じて国際レビューアの割合を変えることで、情報漏洩の対策になるのではないか、全体として割合を決めるということではなく、スピードに応じてやっていただきたい。

## 【議事2．日本医療研究開発機構の次期中長期計画に向けた検討状況

事務局より机上配布資料を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

○公募要領・研究提案書においてPPIに関する記載欄を設ける方針とのことだが、同時に、評価の書式にも記載欄を設けるべきでないか。公募時だけ謳うことにならないか危惧しており、プラスアルファのアピールポイントとして記載する項目があればよいのではないか。

○PPIについて、研究者が中心となるが、PPIに参加する外部に対してのアピールを検討すべきでないか。

○中長期計画について、全体的によく目配りされている計画だと思う。特にライフコースを通じた健康課題の克服というところは、これまでの委員会での意見を踏まえて、目標にしている。

○中長期計画について、ライフコースの視点だけでなく性差に応じた医療も、女性特有の病気という観点からまだ抜け出ていない。よって、ライフコースと共に、性差に応じた医療というところを計画に加えていただきたい。

○現存する母子保健等の健康データ等を活用していくことが記載されているので、様々なデータを活用し、国民一人一人がそれを実際に活用できるデータのシステムにしていきたい。

○ライフサイクルを考えたさまざまな取り組みは、今後、非常に重要となる。発達障害の児童等も増えているので、それを改善するために、どうすべきかということをも早急に研究し、社会に強く発信していかなければいけないのではないか。

○PPIについて、患者のとのつながりという意味では、患者のニーズを見据えて研究を進めるという新しい枠組みになるのではないか。私たちもAMEDがPPIに取り組んでいることを周知していきたいと思う。

○ライフステージの中で、少子高齢化が強調されている中で、実は、壮年期の健康課題は、成育サイクルに当たる部分が非常に重要であることを認識することが必要である。ファンディングにも力を入れていただき、いい研究を育ててほしい。

**【議事 3. 平成 31 年度医療分野の研究開発関連予算について）】**

事務局より資料 3 を基に説明を行った。

委員からは、議題について特段コメントがなかった。また、委員会の総括として、委員からは、以下のようなコメントがあった。

○AMEDは、研究公正教育にしっかりと取り組んでおり、様々なコミュニティーから新たに参入する人たちが出てきているなかで、日本の研究公正の風土

を盛り上げていく上でも非常に重要な役割を果たしている。

- 生命倫理や医療倫理に関するところについても、しっかりとした研究を推進していくために、研究対象者の保護や研究公正に取り組むことが重要。
- 非常に現場の声を大切にし、理事長の強いリーダーシップのもとに、スピーディーにさまざまな支援活動をしている。今後も、国民に広く信頼していただけるような組織であっていただきたい。
- データ共有や活用に関して、IRUDを含めて様々な分野のデータベース化と情報の中身の充実と活用を目指し、国民の利便性向上に資するようお願いしたい。
- AMEDはプレスリリースもたくさん出しており、情報公開に力を入れている。プロジェクトの中でもサイエンスカフェ活動等を評価するという形で情報公開を進めていただきたい。
- 情報公開について、一般向けとかプレス向け、医療者向けに公開をされているが、もう少し対象者のレベルを分け、レベルに応じた公開を目指してほしい。各プロジェクトで、患者、医療関係者等も情報にアクセスできるよう、インターネット中継等も検討していただきたい。
- 高齢化が進行する中で、薬の評価と社会保障の両立が厳しく、今後日本で新薬が生まれるかどうか、国民に新薬が届くかどうかという2つの観点で、非常に厳しい時代になってきている。いかに新薬を生み出すかは、これからも産学官で協働して動いていかなければいけない。その中で、AMEDが果たす役割は今後もっと大きくなるだろう。
- 予防先制医療で一番大事なことは、ゲノム情報を活用して疾病の発症・重症化メカニズムを解明することである。そこから得た知見を活用できれば、もっと迅速かつ効率的に良い医薬品を創出できるだけでなく、今ある薬をより最適に使用できる可能性がある。
- 個人情報の取り扱いには課題があるが、適切に利活用して国、社会のために役立てることができれば、高齢者がより元気になり、世代間のバランスも大幅に変わるだろう。

- 一般の方がAMEDといったときに、何かを知っているかということ、実はまだまだ知られていないのが現状かと思っている。日本の中で研究者になる人が少数の中、研究者の裾野を広げるよう取り組んでほしい。
  
- ライフサイクルに応じた研究や、薬の開発等に力を入れ、明るい長寿国家になって、長生きすることはいいことだということを世界中の人々に示せるよう尽力してほしい。
  
- 医療界、科学技術の発展のために、世界中で関心をもたれているサイエンティフィック・インテグリティを常々研究者に伝えていただくと共に、日本で進んでいるクオリティー・コントロールを研究者に指導することをお願いしたい。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。